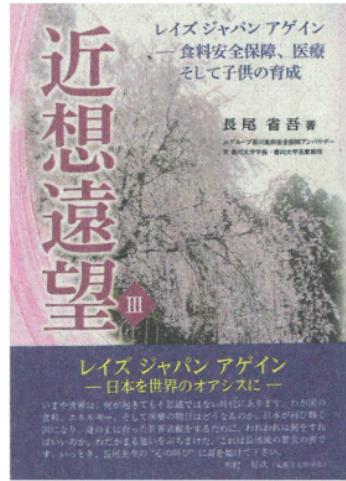


「近想遠望Ⅲ レイズ
ジャパン アゲイン」
の表紙



元香川大学長・長尾省吾さんが新刊

香川大医学部付属病院長や同大学長を務めた長尾省吾さん(81)=高松市中央町II=が、新刊「近想遠望Ⅲ」を刊行した。「レイズ ジャパン アゲイン」をサブタイトルに、国内の食料やエネルギー事情にも触れ、日本と世界の将来に光明を見いだすヒントを探っている。

第1章では、旧大見村(現在の三豊市三野町)に生まれ、豊かな自然の中で遊んだ少年時代を回顧。地域や親戚との絆の中で、子どもたちも自由と、困ったときには助け合う関係性を学んでいたと振り返り、現代の子どもの育成についても触れる。

著者はこれまで「近想遠望シリーズ」の2冊を含む計4冊の著作を発表。専門分野である医療をはじめ、近く10回目の結願を迎えるようとしている四国遍路や、医療と宗教の関わりについての思いをまとめている。

A5判、82ページ。美巧社刊、1650円(税込み)。

ている。

第2章では、現在JAグループ香川食料安全保障アンバサダーを務める著者らしく、日本の食と農の問題を提起。医師として長く務めた実体験や、屋島、滝宮の両総合病院を運営するJA香川厚生連の代表理事長に就いた経験からも「医食同源」の大切さを指摘した。また、農業従事者の高齢化など具体的なデータも示しながら、就農者を増やし食料自給率を上げるために今すぐできることなどを挙げている。

著者はこれまで「近想遠望シリーズ」の2冊を含む計4冊の著作を発表。専門分野である医療をはじめ、近く10回目の結願を迎えるようとしている四国遍路や、医療と宗教の関わりについての思いをまとめている。

国内食料問題の解決探る